

「小笠原初確認！？ミナミハンドウイルカの付着生物」

水中でじっくりとイルカを観察してみると、体に付着している生物を目にすることがあります。例えばエボシフジツボやミミエボシといった種類が挙げられますが、今回はこれまでとは違った大変珍しい付着生物が確認されたので、皆さんにご報告します。

個体識別番号：#41（オチョボ、♀）



2016年4月26日
提供写真：村民撮影

左の写真に示した2頭は、小笠原周辺海域で確認されているミナミハンドウイルカです。写真をよく見てみると、背ビレ直下の体側部分（白丸部分）に、何か刺さっているのがわかりますか？

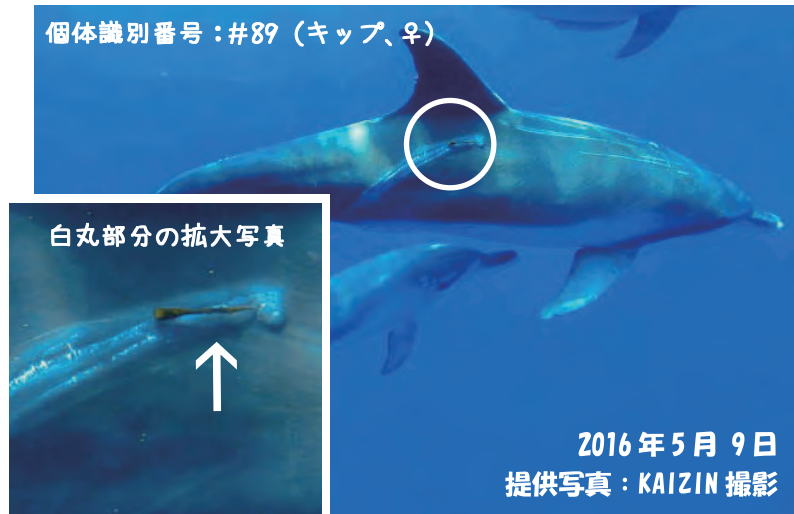
最初は人工物が刺さっているようにも見たのですが、写真を拡大してみると、ペンネラという甲殻類の仲間にも似ています。寄生生物に詳しい研究者の方に確認したところ、予想した通り、ペンネラであるとの返答がありました。

鯨類で良く見られるのは *Pennella balaenopterae*（クジラヒジキムシ）と呼ばれる種類で、通常ヒゲクジラ類であるミンククジラやイワシクジラに寄生することが知られています。しかし、今回のイルカに付着していた種類は、写真を見るかぎり、クジラヒジキムシより体が太いため、種類が違うかもしれないとの連絡もありました。

こうしたヒジキムシの仲間は、一般的に寄生性カイアシ類と呼ばれ、世界では約103種が記載されています（長澤2014）。生態に関する知見は少なく、多くは形態学的な記載に留まっているのが現状のようです。

「カイアシ類学入門」という書籍の中には、①寄生性カイアシ類の宿主への病害性はそれほど強いものではないこと、②宿主には魚類や鯨類、軟体動物（イカ・タコ）や棘皮動物（ウニ・ナマコ）などが報告されていて、通常は宿主特異性が強いいため、ごく限られた種の宿主にのみ寄生すること、③寄生部位は種によって一定していて、宿主の体表に寄生する種がエラに寄生するようなことはないといったことが記載されています。

個体識別番号：#89（キップ、♀）



2016年5月9日
提供写真：KAIZIN撮影

これまでに何人かの島内ガイドさんに話を伺いましたが、どなたも見たことがないとのことだったので、小笠原では大変珍しい観察事例のようです。また御蔵島ではマカジキに付いている例はあるようですが、イルカでの例は無いとのこと。もしドルフィンスイム中などに、ヒジキムシを付けたイルカを見つけたら、OWAまでご連絡ください。その際の写真などがあると、とても助かります。情報お待ちしております。



(引用文献)

長澤和也, 2005. 寄生性カイアシ類の豆知識. pp.19-32.

長澤和也(編)「カイアシ類学入門 - 水中の小さな巨人たちの世界」. 東海大学出版会, 神奈川, 326pp.

長澤和也, 上野大輔, 2014. 日本産魚類・鯨類に寄生するヒジキムシ科(新称) Pennellidae カイアシ類の目録(1916-2014年). 生物圏科学, 53:43-71.